

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	南海福祉看護専門学校
設置者名	社会福祉法人 南海福祉事業会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
福祉専門課程	こども未来学科	夜・通信	180 単位時間	160 単位時間	
	介護社会福祉科	夜・通信	180 単位時間	160 単位時間	
看護専門課程	看護学科	夜・通信	270 単位時間	240 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	南海福祉看護専門学校
設置者名	社会福祉法人 南海福祉事業会

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会
役割	教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会は外部委員と学内内部委員とで構成され、教育課程編成委員会は年2回、学校関係者評価委員会は年1回開催している。 そこで討議した内容を学校運営会議及び教務部会にて検討して各学科へ反映させ、教育の質の向上を図る。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(学) 薫英学園 大阪人間科学大学 2012. 4. 1～2023. 3. 31 (学) 桃山学院大学 桃山学院大学 2023. 4. 1～	2012. 4. 1～2027. 3. 31	専門分野の経験と教育に携わっていることから、専門的な知見を有する。
(学) 睦学園 兵庫大学 2012. 4. 1～	2014. 2. 1～2027. 3. 31	専門分野の経験と教育に携わっていることから、専門的な知見を有する。
(福) 南海福祉事業会 特別養護老人ホーム フィオーレ南海 2005. 4. 16～	2014. 2. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。
(福) 南海福祉事業会 南海かもめ認定こども園 2001. 4. 1～	2017. 4. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。
(医) 紀和会 正風病院 2014. 4. 16～	2022. 11. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。
特定非営利活動法人 だんでらいおん 2005. 11. 1～	2025. 4. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。
(福) 南海福祉事業会 南海愛児園 1995. 6. 1～	2025. 4. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。

大阪府立信太高等学校 2025. 4. 1～	2025. 4. 1～2027. 3. 31	専門分野の現場業務に携わっており、知見を有する。
(備考) 上記 8 名については本校非常勤講師ではない事を確認している		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	南海福祉看護専門学校
設置者名	社会福祉法人 南海福祉事業会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各学科ともに規定に示されている教授内容を基に、テキストの選定をして自身の実務経験等を活かした授業内容を計画する。 新規で担当する科目は、前年度のテキストとシラバスを参照して、規定の教授内容を基に作成されているかを確認する。その上で自身のシラバスを作成する。 前年度と継続して担当する科目は、前年度の反省点や改善点を反映させて質を高めた内容にしていく。 シラバスは、1月から3月の期間に作成し、4月1日にて本校ホームページにて公表する。	
授業計画書の公表方法	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 全科目5段階評価。 5(90～100点)、4(80～89点)、3(70～79点)、2(60～69点)、1(59点以下)として、期末試験の結果及び授業や提出物等の成果を総合して科目担当者が評価をする。 その結果を学科会議にて正しく評価できているかを確認する。 学年末には、学校長を中心に教員全員と事務長にて判定会議(履修認定)を行う。規定の出席率、学費完納の確認をし、5段階評価の2以上の評価があれば履修認定を行う。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績 5 段階評価を GPA の客観的な指標の算出値。 評価 5 → 4 評価 4 → 3 評価 3 → 2 評価 2 → 1 評価 1 → 0 本校の教務システムにて、学生の成績評価をすべて入力し、上記指標の算出値を設定することにより、学生の成績結果が客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料となって表れる。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定は、卒業年度の後期試験（終講試験）終了後、すべての科目の成績評価が出た後、学校長を中心に教員全員と事務長にて卒業判定会議（3 月初旬）を行う。出席率、学費完納の確認をし、5 段階評価の 2 以上評価があれば履修認定を行う。その後、卒業に必要な単位又は単位時間を満たしていれば卒業を認定する	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	南海福祉看護専門学校
設置者名	社会福祉法人 南海福祉事業会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
財産目録	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
事業報告書	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
教育・社会福祉		福祉専門課程	こども未来学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1, 770 時間	405 時間	1, 050 時間	270 時間	0 時間	45 時間	
			1, 770 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		48 人	0 人	8 人	10 人		18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
授業は、講義・演習・実技・実習で構成している。 （講義 15 時間 1 単位、演習 30 時間 1 単位、実技 45 時間 1 単位、実習 40 時間 1 単位） 年間の授業は、前期(15 週)と後期(15 週)の 2 期制とし、授業日は週 5 日（月～金）、1 日 4 コマ（1 コマ 90 分）の授業計画である。
成績評価の基準・方法
全科目 5 段階評価。 5（90～100 点）、4（80～89 点）、3（70～79 点）、2（60～69 点）、1（59 点以下）として、期末試験の結果及び授業や提出物等の成果を総合して科目担当者が評価をする。
卒業・進級の認定基準
1. 規定の科目を履修し、各期末試験を受け、5 段階評価のうち「2」以上の判定を受けていること。 2. 各科目 3 分の 2 以上の出席をしていること。 3. 納入すべき学費を完納していること。
学修支援等
クラス担任制をとっており、日々の学校生活を過ごしやすいよう目を配っている。授業欠席数の増加や成績不振の場合は個別面談を行い、補講も対応している。更には保護者と連携を取り、必要に応じて懇談を行う。 スクールカウンセラーも定期的に来校して心理的な相談もできるよう対応している。

学生が学習しやすい環境を提供できるよう、教職員全員が学生の変化等に気づくよう心掛けている。）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (96.2%)	1 人 (3.8%)
（主な就職、業界等） 保育所及び幼保連携型認定こども園、児童福祉施設 等			
（就職指導内容） 早期に保育の現場を経験し、卒業後の目的意識を高める。就職担当教員が必要に応じて学生と面談し、的確な指導ができるよう配慮している。 2 年次 7 月に学内就職ガイダンスを実施して、様々な職種の事業所と面談して就業のミスマッチを未然に防ぐ。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 保育士資格(国家資格)、幼稚園教諭二種(希望者のみ)			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	2 人	3.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による個別面談をすると共に、保護者への連絡及び連携も密にしている。教職員全体で学生の変化に気づくよう心掛けている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		福祉専門課程	介護社会福祉科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2,800 時間	1470 時間	690 時間	640 時間	0 時間	0 時間
			2,800 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		60 人	31 人	4 人	17 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
授業は、講義・演習・実技・実習で構成している。 （講義 15 時間 1 単位、演習 30 時間 1 単位、実技 45 時間 1 単位、実習 45 時間 1 単位） 年間の授業は、前期(15 週)と後期(15 週)の 2 期制とし、授業日は週 5 日（月～金）、1 日 4 コマ（1 コマ 90 分）の授業計画である。
成績評価の基準・方法
全科目 5 段階評価。 5（90～100 点）、4（80～89 点）、3（70～79 点）、2（60～69 点）、1（59 点以下）として、期末試験の結果及び授業や提出物等の成果を総合して科目担当者が評価をする。
卒業・進級の認定基準
1. 規定の科目を履修し、各期末試験を受け、5 段階評価のうち「2」以上の判定を受けていること。 2. 各科目 3 分の 2 以上の出席をしていること。 3. 納入すべき学費を完納していること。
学修支援等
クラス担任制をとっており、日々の学校生活を過ごしやすいう目を配っている。 授業欠席数の増加や成績不振の場合は個別面談を行い、補講も対応している。更には保護者と連携を取り、必要に応じて懇談を行う。 スクールカウンセラーも定期的に来校して心理的な相談もできるよう対応している。 学生が学習しやすい環境を提供できるよう、教職員全員が学生の変化等に気づくよう心掛けている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 特別養護老人ホーム、知的障害者施設、老人保健施設等			
（就職指導内容） 早期に介護の現場を経験し、卒業後の目的意識を高める。就職担当教員が必要に応じて学生と面談し、的確な指導ができるよう配慮している。 2 年次に学外就職ガイダンスに参加して、様々な事業所と面談し就業のミスマッチを未然に防ぐ。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士受験資格、社会福祉主事任用資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57 人	1 人	1.8%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談をすると共に、保護者への連絡及び連携も密にしている。教職員全体で学生の変化に気づくよう心掛けている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		看護専門課程	看護学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3075 時間	2115 時間	0 時間	960 時間	0 時間	0 時間
			3075 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人		105 人	0 人		11 人	60 人	71 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
授業は、講義・演習・実技・実習で構成している。演習単独の科目はないが、講義授業の中で少し含めている。 （講義 15～30 時間 1 単位、演習 30 時間 1 単位、実技 45 時間 1 単位、実習 30～45 時間 1 単位） 年間の授業は、前期(15 週)と後期(15 週)の 2 期制とし、授業日は週 5 日（月～金）、1 日 4 コマ（1 コマ 90 分）の授業計画である。
成績評価の基準・方法
全科目 5 段階評価。 5 (90～100 点)、4 (80～89 点)、3 (70～79 点)、2 (60～69 点)、1 (59 点以下) として、終講試験の結果及び授業や提出物等の成果を総合して科目担当者が評価をする。
卒業・進級の認定基準
1. 規定の科目を履修し、各終講試験を受け、5 段階評価のうち「2」以上の判定を受けていること。 2. 各科目 3 分の 2 以上の出席をしていること。 3. 納入すべき学費を完納していること。
学修支援等
クラス担任制をとっており、日々の学校生活を過ごしやすいよう目を配っている。授業欠席数の増加や成績不振の場合は個別面談を行い、補講も対応している。更には保護者と連携を取り、必要に応じて懇談を行う。 スクールカウンセラーも定期的に来校して心理的な相談もできるよう対応している。 学生が学習しやすい環境を提供できるよう、教職員全員が学生の変化等に気づくよう心掛けている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35 人 (100%)	0 人 (0%)	35 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院 等			
（就職指導内容） 早期に看護の現場を経験し、卒業後の目的意識を高める。就職担当教員が必要に応じて学生と面談し、的確な指導ができるよう配慮している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119 人	18 人	15.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更・学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による個人面談をすると共に、保護者への連絡及び連携も密にしている。教職員全体で学生の変化に気づくよう心掛けている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
こども未来学科	230,000 円	640,000 円	260,000 円	幼稚園教諭二種免許状 (取得者のみ) 200,000 円
介護社会福祉科	230,000 円	650,000 円	300,000 円	
看護学科	400,000 円	670,000 円	320,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
企業・業界団体・学術機関の有識者等からなる学校関係者評価委員会が、各専攻分野における知見を活かして各学科の教育課程や進路指導等について評価し、その評価結果を運営会議や教員会議にて検討して学校長の決裁により次年度以降、教育活動及びその他の学校運営の改善に活かしていく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(学)桃山学院大学 桃山学院大学	2017. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	専門家等評価委員
(学)睦学園 兵庫大学	2014. 2. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	専門家等評価委員
(福)南海福祉事業会 特別養護老人ホーム フィオーレ南海	2014. 2. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等評価委員
(福)南海福祉事業会 南海かもめ認定こども園	2017. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等評価委員
(医) 紀和会 正風病院	2022. 11. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等評価委員
特定非営利活動法人 だんでらいおん	2025. 4. 1～2027. 3. 31	卒業生
(福)南海福祉事業会 南海愛児園	2025. 4. 1～2027. 3. 31	地域住民
大阪府立信太高等学校	2025. 4. 1～2027. 3. 31	高校等評価委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nansen.ac.jp/lectures/index.html
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310000665
学校名（〇〇大学 等）	南海福祉看護専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	社会福祉法人南海福祉事業会

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		49人（ 0 ）人	45人（ 0 ）人	49人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	31人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	12人	11人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	—	—	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				49人（ 0 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	2人
3月以上の停学	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	—	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。